

①シニア～ベビーに心と愛をつなぐ。

②出張公演の活動後、出席者及び関係者に笑顔で声をかけて頂いた時。

③「思ったら、迷わず、即始めよう」です。



1-10th

①施設などでのピアノ演奏・伴奏。

②音楽の幅が広がり、曲に対する知識が増えた。高齢者の方から、元気やパワーを貰うことが多々あります。

③何かをしてあげるのではなく、時間を分かち合えることの感謝と、相手への敬意の気持ちを忘れずに。



1-10th

①歌を歌っています。ジャンルなしで。

②皆さまに元気をもらっています。

③多くの人に会えて、すばらしい時間がもらえます。



1-10th

①アレルギーに関する情報交換。

②自分の知らなかった情報を得られる事、自分の経験が誰かの役に立つ事が嬉しく、とても楽しい。

③学校や世代が違ってても、その分色々な話が聴けるので、気軽に参加されてみると良いと思います。



1-10th

①アレルギーをもつ仲間と情報交換

②一人では知り得なかった情報をたくさん吸収でき、不安や悩みを話せる仲間ができました。

③やってみないと動き出しにくい、必ず誰かが付いて来てくれるし、協力してくれる仲間が見つかります。



1-10th

## 「聴覚障害者と考える避難所運営訓練」に参加して

10月21日(土) ぷらざこむ 1

災害が起こった時、避難所にはいろんな人が集まるだろう。そこに聴覚障害の方がいたら…どうすれば情報が伝わるか。「手話?」「筆談?」「身振り?」。伝わったかどうかの確認は? アイコンタクトって?

9時半の説明会から始まり、受付、活動班に分かれての活動。ホワイトボードに書いては消し、書いては消しの繰り返し、いたるところで停滞がおきている。いつのまにか時間に追われ、スケジュールをこなすので精一杯。聴覚障害とひとくちに言っても、情報伝達手段もさまざま。思った以上に混乱していたが、参加者の何とかして伝えようという思いは、今後の避難所運営に役立つだろう。

今回の訓練の経験から、自分の地域はどんな人達が暮らしているのか? 顔の見えるお付き合い、「ご近所力」の大切さを改めて痛感した一日だった。

後日、訓練に参加された聴覚障害の方から「地域の中で自分の存在を知ってもらうことから始めないと…早速地域の防災訓練に参加しました」と伺い、これこそ今回の訓練の成果だと思った。(MS)



『フラッシュライト』暗い場所でも、強い光でお知らせします。



『フラッシュライトのコントローラー』パイプレーター機能によってお知らせできます。



ロールタイプのホワイトボード。「こんなにあるんや!」と参加者も興味津々。



出来上がった食事を食べながら、全員で振り返りをしました。



『物資班』引き渡す物資の確認中。



ホワイトボードに自治会名を書いて掲げると、聞こえない方にも伝わります。



『食料班』置いておける乾物を使った、乾物クッキング!



『UDトーク』話した言葉が文字に自動変換、スマホやタブレットで使えます。